都市出版『外交フォーラム』NO.148（2000 年 11 月号）掲載

【書評】

『The Next Stage: Preventive Diplomacy and Security Cooperation in the Asia-Pacific Region』

デズモンド・ボール他編　オーストラリア国立大学　1999 年

評者　神保　謙
アジア太平洋研究センター研究員

アジア太平洋地域における全域的な安全保障対話の枠組みであるＡＳＥＡＮ地域フォーラム（ＡＲＦ）は、参加国間の情報の透明性と交流の拡大を通じた信頼醸成措置を継続させながら、予防外交の可能性を検討する段階に入りつつある。本書は、ＡＲＦにおける予防外交のありかたについて、主に非政府間（トラック II）会合におけるアイディアの提示とその受容をめぐる論考１４編を所収したものである。

既に多くの論文で紹介されているように、トラック II 会合は個人の資格で参加する政府／民間専門家によって、各国の政策についての①情報交換、②アイディアの根回し、③アイディアのテスト等様々な役割を担う場として位置付けられている。しかし、とかくトラック II 会合の実態は、国際会議に参加して配布されるペーパーを得ることのできない研究者にとってはベールに包まれた部分が多いことは否めない。評者も学生時代、類似テーマで卒論を書くにあたって歯がゆい思いをしたことがある。本書はアジア・太平洋ラウンドテーブル、アジア太平洋安全保障協力会議（CSCAP）他様々なトラック II 会合での予防外交の検討の変遷過程が、主要な論文の紹介を通じ時系列的に、またイシューごとに理解できるよう編集されている。この種の編著ではレアな一冊である。

クロノロジカルに本書を読んでみると、ＡＲＦにおける予防外交の議論は「概念の知的ディベート」から「地域的適用への実用化」への模索過程であることがわかる。当初のそれはブトロス・ガリの『平和への課題』における予防外交概念との対話であった。しかし、予防外交における軍事力の使用の是非、主権や内政不干渉原則のありかたなどをめぐる議

論に配慮し、定義はとりあえず最大公約数的なものとしつつ、ＡＲＦを舞台として実施可能な措置の束を模索すべき、という視点に論点が移行していくプロセスが興味深い。そこにＡＲＦにおける中国の特殊な位置付けを発見することもできる。それが 1999 年の暫定的な CSCAP における予防外交の定義と原則へと結びつく。読者はそこにトラック Ⅱ「外交」における提案と妥協のドロドロとしたダイナミクスを感じとれるだろう。

多国間安全保障協力の素地が薄いといわれる、アジア・太平洋地域。しかし、本書を読んで気づくのは、控えめな安保協力の合意が出来上がるその裏舞台には、理論と事例研究のクロススタディが行われているということである。これを将来の予防外交進展へのマグマと捉えるべきか、排気量の多いエンジンのような効率の悪さと見るかは、今後のＡＲＦの展開次第であろう。